

令和6年度 学校評価

埼玉大学教育学部附属特別支援学校

学校自己評価				保護者アンケート		学校関係者評価	次年度への改善策案
評価観点	評価項目	※目標達成度	主な意見	評価項目	※目標達成度	学校評議員会・評価委員会 2月13日実施(参加10名)	
教育支援の充実	将来を見据え、自立と社会参加に向けた系統的な学習指導の充実	96% ↑ A	将来を見据えた指導支援や学習活動は充実しているが、より系統的な授業実践を行えるとよい。他学部の授業見学の機会を持つなどを行いたい。	学校は将来を見据え、わが子の自立と社会参加に向けた学習指導を行っていますか	A	・教員から系統性の重要性や方策の提案がされることが良い。コミュニケーションを密にしていってほしい。 ・他学部の取組を知ることは、指導実践力の向上にもつながり、移行支援の充実にもつながる。 ・主体的に選択、思考判断する機会は、適切に行動する力につながる。主体性を重視した教育実践を。 ・禁止によって抑制されると行動上の問題につながる事例が多い。人権を尊重した「禁止」のない支援を。 ・共生社会の推進のために小中学校との交流及び共同学習や地域の人とかかわる学習のさらなる充実を。 ・地域、近隣校も含め、障害の有る方々をつなぐ場として公民館の文化祭などのイベントなどを活用する。 ・職場での困難から行動障害を起こすことが多いため、多くの職場体験、現場実習の機会をもち、生徒が自ら判断する力を育むことが重要。	・学校研究と教育課程検討委員会の成果を活かし主体性を重視した系統性のある教育支援を実施する。 ・校内授業研究会など、他学部の授業見学できる研修を実施する。 ・職員会議の際等に不祥事防止研修を実施する。 ・教員の校内研修及び学外の専門研修等の機会を設ける。 ・地域近隣施設や事業所等と連携した職業体験学習や実習の充実を図る。 ・保護者プログラム他保護者の学習会や研修の内容や方法を工夫し実施する。
教育環境づくり	安全で安心して生活できる教育環境づくり	100% ↑ A	教職員の不祥事根絶やいじめ防止対策などについて、研修や組織体制の充実を図ると良い。	学校は子供たちが安全で安心して学べる教育環境づくりに取り組んでいますか	A	・保護者の学習会が充実している。性に関する問題が精神疾患と誤解されることがあり、適切な知識の共有と支援が必要である。通学の自立に向けた支援なども情報共有が必要である。教員と保護者がともに学ぶ機会や保護者同士の学び合いができると良い。	
授業実践力の向上	各教員の専門的指導力の向上	88% ↑ B	校内での授業研究会、校内での悉皆の専門的な研修をより効果的に実施したい。	本校の教員は専門的指導力の向上に向けて努力していますか	A	・充分対応されている評価である。単に「早く帰る」ではなく、業務を見直し、重点的に取り組むべき業務に注力することが重要。教員が仕事を適切に遂行したいと考え、教育の質を高める努力を続けながら、無理なく働ける環境を整えることが理想。本校の方針がシステムとして機能しつつあり、今後も持続可能な改善が期待される。	
地域保護者連携	保護者・地域と連携した特別支援教育の推進	100% ↑ A	地域を学びの場とした学習や交流及び共同学習、保護者向けの学習会など活動を充実させることができた。	学校は地域や家庭と連携して特別支援教育を推進していますか	A	・「多様な職業」の学習は、多くの職種、期間で取り組んでほしい。 ・「貧困・経済的格差」の学習として募金活動はとても良い。障害のある人は助けられる存在となりがちだが、児童生徒が社会に目を向け、役に立とうとする経験が重要である。	・各自が組織改変、分担見直しの評価をしつつ都度の改善に取り組む。 ・会議打合せの質の向上と個々の働き方の尊重をバランスよく取り組む。
働き方改革	勤務時間を意識した働き方の実現	88% ↑ B	グループウェア等の活用が進み、物理的な拘束時間の減少、各自のタスク処理と報告・連絡・相談が効率的に行われた。会議の質的な効率化が求められている。	-	-		
大学連携	「共生・ダイバーシティ社会」の担い手づくり	48% ↓ D	今年度の重点目標のうち、「貧困・経済的格差」についての実践が困難であった。	学校は「共生・ダイバーシティ社会」の担い手づくりに取り組んでいますか	B		

令和6年度全体総括

- 【教育支援】 教員のA+B評価合計が上昇している。学部間の系統性について、学校研究、教育課程検討委員会の成果により充実を図りたい。
- 【教育環境】 新校舎に対応した防災・防犯マニュアルの改訂ができた。児童生徒の心理的な安全に対する意識の向上が見られている。
- 【実践力向上】 校内外の研修機会の充実や積極的な参加が望まれている。
- 【地域・保護者連携】 昨年度の実践により効果を感じ、地域を活用した学習活動及び保護者や地域との連携が充実した。
- 【働き方改革】 組織改革が行われたが、各分掌組織等の業務の効率化と、会議の質的な効率化が引き続き必要である。
- 【大学連携】 大学及び附属学校園間の連携は進んでいる。大学の要請と本校の教育課程とのすり合わせが重要となる。

※アンケートA評価とB評価の合計  
 A…達成度9割以上  
 B…達成度7割以上  
 C…達成度5割以上  
 D…達成度3割以上  
 E…達成度3割未満